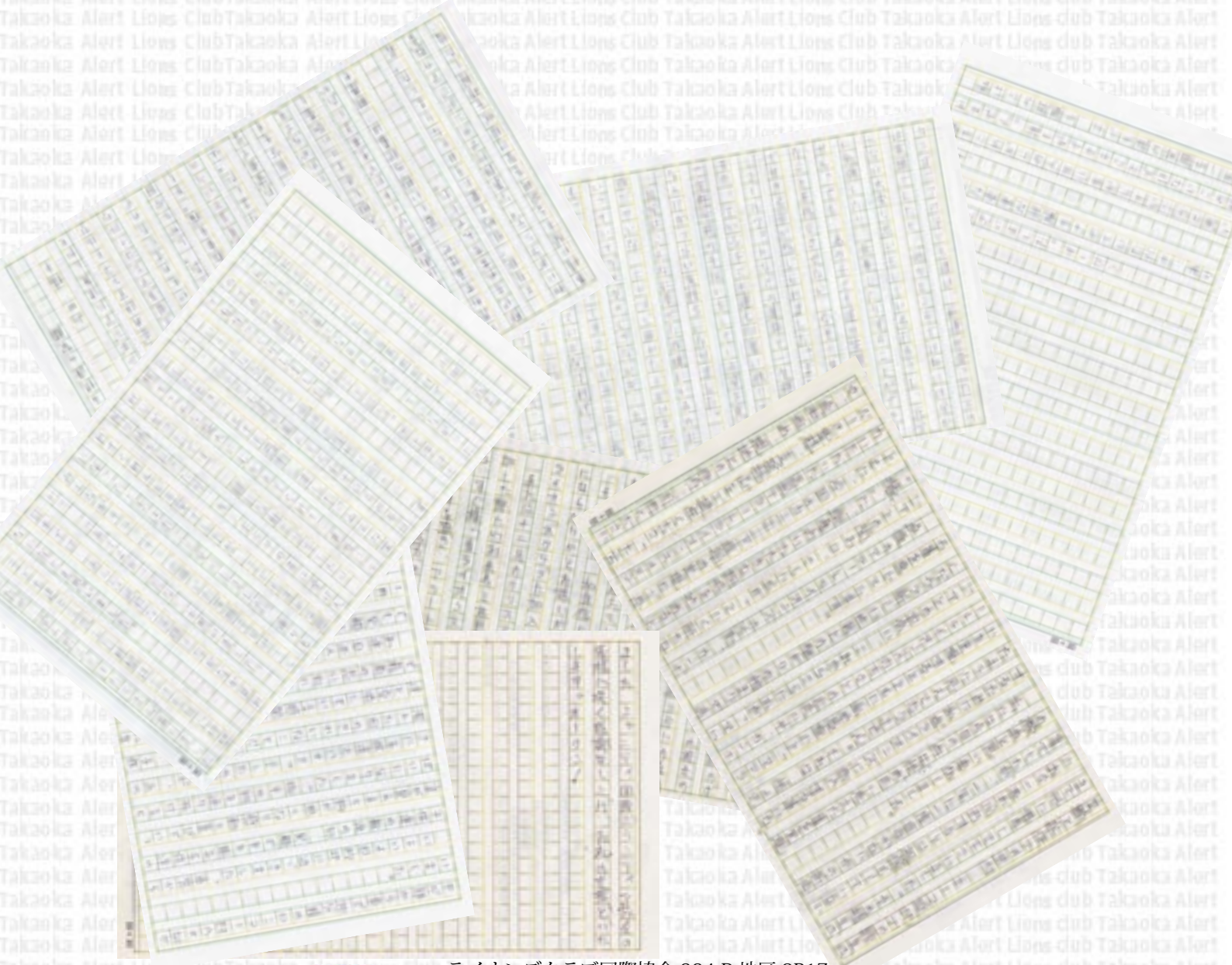
Cambodia,Kingdom of

Activity Report

海外教育支援

カンボジア国のこどもに文具を贈る



ライオンズクラブ国際協会 334-D 地区 2R1Z

高岡アラートライオンズクラブ

チャーターナイト記念事業

カンボジアの子どもたち

海外教育支援

　世界の中でまだまだ教育の届かない地域が多くあります。昨年度ノーベル平和賞を授賞したマララさんはタリバン銃撃を乗り越えた。国連演説会文「１人の子ども、１人の教師、１冊の本、１本のペンでも世界を変えられる」と語る。

すべての子どもに教育を受ける権利の実現を訴えた。

この様なスピーチを聴き、私たちは１本のペン１冊のノートを贈ることで少しでも教育の一助となればと考え、まだまだ不十分な教育環境を改善することができると信じ、海外教育支援をチャーターナイト記念事業アクティビティと致しました。

【贈　呈　文　房　具　一　覧　表】

文具名	数　量	日　付	提供者
ノート・図画帳	1,024	回収期間中	クラブ員及び支援者・小杉南中学校
鉛筆	2,902	〃	クラブ員及び支援者・小杉南中学校
鉛筆削り	101	〃	クラブ員及び支援者
消しゴム	1,014	〃	クラブ員及び支援者・小杉南中学校
ボールペン	112	〃	クラブ員及び支援者・小杉南中学校
色鉛筆	64	〃	クラブ員及び支援者・小杉南中学校
ペンテルペン	18	〃	クラブ員及び支援者
シャーペンシュル	54	〃	クラブ員及び支援者・小杉南中学校
シャーペンシュル（芯）ケース	5	〃	クラブ員及び支援者
蛍光ペン	11	〃	クラブ員及び支援者・小杉南中学校
電卓	3	〃	クラブ員
鞄	85	〃	クラブ員
クレヨン 12 色	72	〃	クラブ員
絵の具 12 色	5	〃	クラブ員
パレット	4	〃	クラブ員
塗り絵	320	〃	クラブ員
折り紙	320	〃	クラブ員
おもちゃ			
エリコプター	50	〃	クラブ員
組み立て飛行機	72	〃	クラブ員
吹き出し	48	〃	クラブ員
竹とんぼ	50	〃	クラブ員
シャボン玉	50	〃	クラブ員
ドラえもんお面	8	〃	クラブ員
クラフトバルーン	5	〃	クラブ員
紙風船	50	〃	クラブ員
お菓子（キャンディ）	100	贈呈式	クラブ員
合計点数（お菓子除く）	5,806		

小杉南中学校ボランティア部活動　９名参加

文房具収集に伴う分別作業　2015 年２月９日

■文房具仕分け

■ボランティア部

■文房具仕分け

■ＣＮ：小杉南中学校に感謝状

■ボランティア部

■ボランティア部

■ボランティア部

■文房具仕分け

■中学校へ趣旨説明

L. 水持 隆繁

認証状伝達式記念事業の一つ海外教育支援事業はカンボジアの小学校へ教材を贈呈するアクティビティと致しました。発案はチャーターメンバーL. 山田正樹の子女、山田成美さんで射水市立小杉南中学校ボランティア部所属しています。小杉南中学校で集めた不要文具の他にノート 1,000 冊　消しゴム 1,000 個、三菱鉛筆 2,400 本、折り紙 320 袋、塗り絵 320 冊、其の他の文具で 5,000 点を目標に集め、カンボジア国バッタンバン州オー・タキ集合村の小学校に届けることになりました。届け先を選定するに当たり、昨年 LCIF 基金を利用してカンボジアのオー・タキ小学校へ図書館建設と図書と教材を贈呈した素晴らしいアクティビティを実行された福井 LC のご指導を受けて計画を立てました。

カンボジアの事を少し勉強致しました。カンボジアはアンコールワット遺跡とポル・ポト政権、猫ひろしぐらいしか知りませんでした。

貧困の背景

今から 30 数年前､ポル･ポトという独裁者によって行われた大虐殺の主な犠牲者は教師や医者といった知識層と無辜の人びとでした。その数は 200 万人を超えると言われています。史上最悪の内戦はカンボジアの教育を崩壊し貧困と言う大きな爪痕を残したのです。

現在、地方の人口の９割が１日１ドル以下で暮らす貧困層で、十分に教育を受けることが出来ない子供たちが沢山います。

教育の現状

ポル・ポト政権によって一度は「教育制度」が廃止され、そして教師を始めあらゆる知識層が殺されてしまった。カンボジア・ポル・ポト政権崩壊後、何とか文字を読める人が教師となり就学率は９０％を超えるのですが卒業できるのが其のうち半分です。そして中学３４％、高校１５％、大学は５％程です。

通学してもしっかり教える先生がいなければ意味がありません。６割以上が中学を卒業した時点で先生になり、社会的地位も低く１ヶ月生活するには３００ドル必要なのにも関わらずほとんどの先生は５０ドル程度の薄給で、同じ公務員でも政府の高官は裕福な生活をする一方です、現場の先生は日々の生活を守る為副業をせざるを得ません。その様な理由で政府から支給されたはずの教科書が市場に売られています。

日本の中学生が平均で 70 点～ 80 点の点数を獲得する実力試験で、カンボジアの先生はわずか 30 点程度しか獲得できなかったと言うデーターがあります。

現在、カンボジアは海外の援助に依存していますが、援助が永遠に続くわけではありません。援助する側も、ただ援助するだけでなく、教育によってこの国の子供たちが大きく育ってこの国のリーダーとなり、この国は自らの手で発展するためにも我々で出来る教育の援助が出来る喜びに感謝します。

子どもとヘリコプターで遊ぶ L. 水持隆繁

L. 竹村 与志治

カンボジア海外教育支援事業に参加して

今回のカンボジアの海外教育支援は高岡アラートライオンズクラブのＣＮ記念事業として行われました。いきさつについては、メンバーのボランティア部の中学生の子供さんがクラブの家族会での「私達が集めた不要のノートと鉛筆を誰かの役に立ちたい」との一言から始まりました。

メンバー始め多くの人たちのご協力やご支援でこの事業を推進することが出来ました。特に最後まで段取りをしていただいたシャンティ国際ボランティア協会の皆さんには深く感謝をいたします。

支援物資は事前に送り、高岡アラートＬＣのメンバー５名、家族会員１名、ボランティ部の中学生の生徒さん１名計７名で３月２６日に多くのメンバーや報道機関の皆さんに見送られ出発しました。

贈呈式は２７日に行われシェムリアップから車で４０分程にあるロココ村の小さな学校で行われ、約２６０名の子供たちが学んでいるそうです。

我々が村に着いてびっくりしたのが、その子供たちが長い列を組んで明るい満面の笑みで迎えてくれたことです。厚く感動して入場しました。後で聞いたことですが、我々を迎えるにあたり２時間も前から並んでいたそうです。

そして文具ノートなどの贈呈式が終わり子供たちとの折り紙やボールや縄跳びで交流しました。私も縄跳びやサッカーボール共に遊びました、みんな笑顔いっぱいで、決して恵まれていないのに生き生きしています。簡単な紙ヒコーキを折り紙で折ってあげると次から次と何人もの子供たちが興味津々の顔で並んでいました。近くの図書館と教室も見学しましたが、本の数も少なく、黒板などの教材も粗末です。聞けば、制服を持っている子供たちは学校に来れるけど、制服のない子は来れないそうで、親の負担は大変だそうです。

そして交流の時間が過ぎ、また子供たちに見送られ私たちはロココ村の小さな小学校を後にしました。

まさにカンボジアに来てよかったなと思った感動的なひと時でした。私は１２年前にやはりライオンズクラブが主催した小松からのツアーでカンボジアを訪れたことがあります。アンコールワットなどの壮大で神秘的な遺跡群とトンレサップ湖に沈む感動的な夕日が強く印象に残っています。そして日本の技術がアンコールワットなどの修復に役立っており非常に親日的でした。今回改めて訪れて感じたことはシェムリアップなどの都市部は大発展で、今もあちこちで綺麗なホテルなどの建築ラッシュで人々も街にあふれ品物も豊富で賑わっています。１２年前はもちろんホテルなどはありましたが少なく、街には農地もあり、舗装がしてある道路はまれで裸足の子供たちも多くいました。路地を入れば清潔とは言い難い市場が多くありました。

一方、農村部は今も１２年前もほとんど変わりません。あるのは粗末な高床式の住居と電気のない自然にまかせた生活、痩せた牛や鶏と雑草もあまり伸びない荒涼とした土地、雨季にしか収穫できない農業などまさに貧しいところです。まれに少し綺麗な家がありましたがそれは出稼ぎで建てた御殿だそうです。

私は１２年も変わらない大きな要因は教育に有るような気がします。なぜ教育が進まないか、それは教育者が極端に少ないということではないか、カンボジアは過去に内戦で国民の３分の１特に知識人と言われる国のリーダーとなっていく人々が失われ、その影響が今も深く関係しているのではないかと思います。ですから今の子供たちがしっかりと学び、やがて次の世代に繋がれていくことが人々の幸福への道だと信じています。

教育は種まきみたいなもの、我々の今回の支援がいつか大きな果実になる力となればと願っています。子供たちは国の宝であり、世界の宝です。

出発式　会長（団長）L. 竹村与志治

　高岡アラートライオンズクラブの記念事業の一つである教育に恵まれない子ども達に一本の鉛筆一冊のノートを贈ることで教育の充実の一助となればと考えています。３月 27 日の贈呈式で皆さんご善意を届けてまいります。今日は本当にありがとうございました。

出発式　山田成実さん

　今日の出発式迄沢山の文房具の寄付にご協力いただきありがとうございました。
カンボジア、ニーペック地域の小中学生 415 名コンロー地域の小中学生 498 名に文房具を贈りに行ってきます。また現地では日本の伝統文化の折り紙などで交流を深めてきます。今日はありがとうございました。

子どもより持参文具を受け取る

クラブ員より持参文具を受け取る

新聞社より取材を受けるL. 板野吉秀

見送り人数：家族等 25 名

取材：北日本放送３月 26 日テレビ放映、北日本新聞社３月 27 日記事新聞掲載

ＣＮ記念事業カンボジア贈呈式参加者名簿	
所　　属	名前（ABC 順）
高岡アラートライオンズクラブ　一年理事	燕昇司信夫
高岡アラートライオンズクラブ　幹事	板野　吉秀
高岡アラートライオンズクラブ　会員理事	水持　隆繁
高岡アラートライオンズクラブ　会長	竹村与志治
小杉南中学校　ボランティア部	山田　成美
高岡アラートライオンズクラブ　会員	山田　正樹
高岡アラートライオンズクラブ　家族会員	山田　陽子

カンボジア教育概況

【小学校教員　教育水準】

1, 高校	48%	21,451 人
2, 中学校	47%	21,318 名
3, 小学校	3%	1,501 名
4, 大学	2%	749 名

識字率　比較			
	2008 年	1998 年	2000 年
	国政調査	国政調査	UNSECO/UND
成人 15 歳～	79.3%	67,3%	37.1%
青年 15 歳～ 24 歳	87.1%	76.3%	NA

2014 年度対象地域調査結果 ニーペック村集合村	
回答者数	53 名
小学校未修了	93%
一日あたりの収入 1 日 1.15 ドル以下	79%
文字の読み書きができない　自己申請	43%
日常生活で読み書きができないことに不自由を感じている	85%

L. 燕昇司 信夫

砂埃の中に二つの瞳

一言「使わない文具を何処かに贈りたい」という何気ない問いかけに会長 L. 竹村与志治は素早く反応した。蓄積された「We Serve」の心は本能的に彼女の気持ちを斟酌することができた。2014 年 12 月 20 日（土）のクリスマス家族例会の一幕が二幕三幕と続くとは予想する者はいなかった。高岡アラートライオンズクラブが結成式を終えて、初めての例会である。

顔と名前、家族構成、趣味、性格等互いに認識するほどではなかった。まだまだ自己防衛の会員は尺時定規の会話から抜け出せぬ中で、小杉南中学校の生徒（山田成美）が問いかけの一言を発する事となる。記念事業の核が定まらず、「青少年育成→奉仕活動→海外支援事業」という図式が具体性を持った形で提示された一瞬であった。

身の丈にあった記念事業を模索していた。しかし事業のイメージは大きく膨らみ、イメージは次のイメージを創り、次のイメージは次のステージへと導かれた。

一本の鉛筆を届ける会員、一冊のノートを届ける知人、自腹で鉛筆削りを寄付する元ライオンズマン等、多くの人達の共感と協力はこの事業の原点である。もちろん、小杉南中学校ボランティア部な中心的役割を果たすわけである。

閑話休題

着陸態勢に入った MU513 機は徐々に高度を下げた。俯瞰するシェムリアップ市内は暗闇の中に点綴する小さな蛍の光の様に飛び込んでくる。やがてオレンジ色の誘導灯が直線的に、規則正しく並び MU513 を迎え入れた。タラップを降り、天空を見上げると赤銅色の月が、日本で観る月とどことなく違った。

27 日、我々 7 名はシェムリアップ市内からロンコー村に向う。舗装された道とはいえ、テレビ画像でよくみる乾季独特の砂埃、カンボジア国の実情を語っているように思えた。車窓から見えてくるロンコー村の風景から住宅、労働、教育事情の全てに貧困の影を感じる。

暫くすると村一番の施設（Community Center）に子ども達が我々の到着を待っていた。彼らにとっては我々は宇宙人（外国人に触れたことがない）に写っている。宇宙人を歓迎する小さな手で限りない拍手が私の耳を劈く。歓迎の広場で受ける笑顔と拍手は筆舌できないほど感銘深いものであった。

レンズを通して贈呈式、交流会を覗きカンボジアの子ども達に一本の鉛筆、一冊のノートが教育の向上に繋がり、彼らの学ぶ喜びの原点となり大人になった時、3 月 27 日の記憶が蘇って欲しいものである。小さな事業から我々はライオンズの奉仕の心を学んで帰国した。海外教育支援はこれからの高岡アラートライオンズクラブの課題としよう。

28 日アンコールワットで女児が発する「5 個でせんえーん」塔から水壕まで続く力無い声は 15 年前のディジャブ現象。10 年後この様な情景がないことを祈って、自問する「あの子が私を瞠目する瞳の意味とは何か」文具を受ける希望の瞳とお土産を売る塗炭の瞳。砂埃で二つの瞳を見た。

笑顔一杯の子ども達

山田 成美

カンボジアで学んだこと

なわとびで一緒に遊ぶ山田成美

折り紙を教える山田成美

学校で行っていた文房具の回収でしたが、こんな大きなことになろうとは思っていなかったのでカンボジアに行くことになったときはとてもびっくりしました。

いろんな気持ちで現地の学校に向かい、ずらーっと子ども達が並んでくれているのを目にしたとき、とても感動しました。みんな笑顔でこんな盛大にむかえてくれて、本当にうれしかったです。一緒になわとびをしたり、折り紙をおったり、カンボジアの子は受け入れてくれるか不安でしたが、子ども達が笑顔になったときはホッと安心しました。帰りもみんながキラッキラの輝いた笑顔を見せてくれて「来てよかったな」と思いました。日本では、あんな純粋な笑顔はなかなか見れないとも思いました。

子ども達と交流した時間ととても短い時間でしたが、学んだことはたくさんありました。

カンボジアの子ども達は、私達が会ったときは笑顔でしたが、他のところでは私には分からない大変は思いをしているだろうし、充分に勉強したり、食事をしたりすることができません。でも、あの子ども達の笑顔からはそんなことを感じさせない、今を一生懸命楽しんで生きる姿が感じられました。また、私はアンコールワットなどの遺跡で一生懸命に葉書を打っている子ども達も印象に残りました。一生懸命親の手伝いをしている姿を見ると、なんだかつらい気持ちになりました。

自分はこんなに幸せな環境にいるのに、勉強だやいな、とかすぐ疲れたとかひまだとかいっていてダメダメじゃないか、と。もっともっと、こうやって生きていることに感謝して、今を大切にしていかなければ、とこの経験を通して強く思いました。

また、ライオンズクラブの皆さんが私と同じような事を感じて、この世界の大きな課題と向き合う姿を見るとうれしくなりました。

私はこの経験を、子ども達の笑顔を一生忘れません。誰もができることではないこの経験をこれからの人生に生かしてこうと思います。

こんな貴重は経験をさせていただき、ありがとうございました。オークン。

山田 陽子

カンボジア＝子ども達の笑顔

　文房具の支援先がカンボジアに決定したと聞いて、すぐに思い浮かぶのはアンコールワットです。テレビの映像で見るアンコールワットはとても美しく興味深いものでしたので訪れてみたい国のひとつでした。しかし今回の一番の目的は観光ではなく教育支援。そして実際に現地に赴いて手渡しをするというのですから又とない機会に胸が躍りました。以前、島田紳助さんが絵画を売却した資金で学校を建設するという番組を視聴し、自分もそういう手助けをしたいと思っていたからです。

さて、カンボジアに入国しホテルに到着したその印象はましたか南国リゾートにでも来ましたかと思わせるほど、貧しい国の印象は、微塵も感じられませんでした。

２日目、目的を果たす日となりました。最初にボランティア事務所でカンボジアの教育事情に関する説明を受け現状を理解した後、中心部から車で３０分程のロンコー村へと向かいました。

いよいよ目的地に近づきました。車窓から子供達の歓迎の列、笑顔で手を振る子供達の姿が見えると胸が熱くなり感動と喜びでいっぱいになりました。拍手の列を通り抜けると子供達とハイタッチしたのですが､あの澄んだ目のきれいなこと！！式典を終え、子供達と交流している時間はあっという間で人生で最高の思い出になりました。

私達日本人から見れば生活は貧しいです。でも笑顔はどこにも負けません。１本のペン１冊の本、で教育と生活の質が向上することを願いつつ、その笑顔は絶やさずにいて欲しいと願わんばかりです。

世界遺産のアンコールワットも最高でしたが、地方の村に行くのもおすすめですよ、笑顔に心が癒されますから、オークン。

260 人の子ども達の大歓迎

会長 L. 竹村与志治の挨拶を英語で通訳→英語からクメール語で通訳

平成 27 年３月 26 日（木）～ 29 日（日）カンボジア現地　支援物品贈呈式の報告

L. 山田　正樹

〇カンボジア

人口およそ１５００万人　うち２割が最貧困民（１日の収入が１．１５＄以下）

今回の贈呈先　ロンコー村、ニーペック村　村民の９割が最貧困民

　８割が小学校未終了→識字率２割未満　電気・水道なし、トタンあばら屋高床式

お米に偏った食事

〇 6,000 点のノートや鉛筆をロンコー村 415 人、ニーペック村 498 人の小中学生に配布

〇現地ボランティア団体（シャンティ国際ボランティア協会　ロンコー村に図書館、屋根付き多目的スペースを建設）の仲介で実現

〇滞在地シェムリアップのホテルから 45 分程のロンコー村にて贈呈式

ロンコー村小学校低学年およそ 260 名と先生数名、父兄 10 数名およそ 300 人がお出迎え！２時間前もから！

〇シャンティボランティア協会から日本人とカンボジア人の２名の参加　日本語⇔英語⇔クメール語の通訳で　村の代表の謝辞、竹村会長のあいさつ、山田成美の一言　会員一人ひとりから生徒代表数名に手渡し

〇折り紙、ゴム風船、なわとび、ボール、けん玉など　１時間半の交流　気温 32℃

〇シェムリアップ　アンコール遺跡の観光都市 17 万人　高級ホテルやお店が立ち並ぶ　道路は車とバイクと自転車ごったがえす　スマホを手にする若者たち

〇同じ国の中での格差　町を出たら見渡す限りの平原　赤い土

〇子どもたちは元気！笑顔！　便利であること≠幸せであること

〇何不自由ない恵まれた環境にいる我々の出来ること　支援の仕方　奉仕　自分の可能性

　アンコール遺跡　カンボジアをきれいにしたい！

カンボジア旅行川柳

　券なくし　会長ポリスと　二人乗り

　腰痛に　耐えて燕さん　塔登る

　乗り継がず　出国しても　板野笑み

　酒過ぎて　夕飯舟こぐ　板野さん

　ライオンと　言うより　水持ドラえもん

家族ともども貴重な体験をさせていただき深く感謝申し上げます。どうもありがとうございました。オークン！

L. 山田 正樹

思考が現実となる

娘が「世界の恵まれない子供たちに、日本で使われなくなった文房具を送りたい」と言ったのは九月の話です。中学二年生の後期のボランティア委員長を努めるに当たっての彼女の公約でした。私はそれこそ、知り合いの青年会議所やライオンズのメンバーの方にお話すすれば窓口になってくれるか、紹介してくれるのではないかと考えていました。そんな折りに、私自身にライオンズメンバーにならないかとお誘いがあり、高岡アラートライオンズクラブに入会する事になりました。あれは十二月のクリスマス例会に家族で参加した際に竹村会長と板野幹事にお話したところ、すぐ様、「当クラブで取り組もう！」とお返事を頂き、アラートライオンズクラブの皆様のご協力、ご尽力のもと、短い期間であったにも関わらず、およそ六千点にも及ぶ沢山の支援物品を揃えて頂き、送り先の選定から空輸と船便での送付、そして現地での贈呈式まで形にして下さいました。その贈呈式に我々一家が同行するとは想像もしていない事でしたが、一生に一度あるかないかの折角の機会と思い参加しました。

私には今回の件は、娘が考えた事を実現するために私がライオンズに入会する事になったように思えてなりません。それは、娘の思いを実現するとともに私や家族にとってアラートライオンズクラブの方々との出会いや、カンボジアとの出会い、これからさらに広がっていくだろう新しい世界との継がりの始まりである事を感じています。

今後のアラートライオンズクラブの活動、カンボジアとの関わり、さらに広がっていく新たな“縁”に、興奮めいたおおきな期待を込めるとともに、今回のカンボジア渡航の実現にご尽力いただいた高岡アラートライオンズクラブのメンバーの皆様、支援物品をご提供くださった方々、会社始め、現地との仲介、同行くださいましたシャンティ国際ボランティア協会の皆様に深く感謝申し上げ、お礼の言葉といたします。オークン！

炎天下で 260 人の子ども達の歓迎の列

L. 板野 吉秀

カンボジア支援について

３月27日はホテルで朝食をとり、カンボジアで世話を頂きました、シャンティボランティア協会の事務所で説明を聞き、トンコー村小学校へ。
カンボジアで、皆様から集めて痛きました、文具を会長L. 竹村与志治、幹事L. 板野吉秀、L. 燕昇司信夫、L. 水持隆繁、L. 山田正樹 L. 山田陽子、山田成美さんと贈呈式を行ってまいりました。
１時間ほどバスでトンコー村に、舗装もされていない赤土の砂煙が舞い上がるがたがた道を走り小学校に着くと子供たちが道に並んでお出迎え私たちがつくまで２時間待っておられたとのことでした。それも200名から300名ぐらいの子供さん親御さん私たちは感銘を受け涙が出てきました。そうそうに、竹村会長からの挨拶、文房具の贈呈式、交流会と進め子供たちとの交流を図ってきました。
交流会の中では、まず、L. 山田陽子、山田成美さんと折り紙､持参されたボールでサッカーや縄跳び、その後、図書館や設備の説明、しかし、飲み水も雨水をためた、赤茶色の水、ここ最近になってようやく、細かな石を入れたろ過装置を使い出したとの説明を受けもうびっくり、私たちが帰るときも、皆さんでお見送りを頂感謝感激その子供たちが、はだしの子供も多く、空港、観光地との格差を感じまだまだ支援が必要だと実感いたしました。今回は、日本から物品を贈るという趣旨でしたが、送料も結構かかり出来れば、体だけ行って向こうで、物品を購入し購入した物品で友好を図ることも良い支援だと感じました。
ただ、帰りには多数の方がお腹をこわされ大変な経験をしてこられました。水は飲んでいないのでしょうが、やはり、衛生的な設備がまだまだ不足しているのでしょう。
いろいろな、支援を今後も必要と感じました。

現地の水事情（簡単な濾過水）

折り紙に興じるL. 板野吉秀

現地の高床式住宅視察

サッカーボールで遊ぶ子ども達

贈呈式後全員で記念撮影

文房具を受け取る代表の子ども達

文房具を贈呈する高岡アラートＬＣ会員

なわとびでの会長 L. 竹村与志治

L. 山田正樹の真顔

折り紙を教える L. 山田陽子

贈呈の文房具

けん玉で遊ぶ子ども達

贈呈式喜びの瞬間

スケジュール　2015/3/26～29					
	月日	滞在先	時刻	内容	備考
	Date	Place	Time	Contents	Notes
1	2015/3/26	中国東方航空 MU513			
	（木）	シェムリアップ	21:46		
					SHKKA ANCKOE RESERT
					Nationa Road No6 & Sivatha Street
					Junction,Siem Reap,CAMBODIA
					(855)63-969 999 Fax(855)63-969
2	2015/3/27	シェムリアップ	7:00	ホテルで朝食	
	（金）		8:00	SVA シェムリアップ事務所へ移動	
			8:30	SVA シェムリアップ事務所へ到着	
				SVA カンボジア事業のブリーフィング	
			9:00	Ronkou（ロンコー）村へ移動	
				Ronkou（ロンコー）村へ到着	
		10:00～	11:30	文具贈呈、交流	
			11:30	シェムリアップへ移動	
			12:30	シェムリアップへ到着	
				昼食・意見交換	
			14:00	アンコールトム等観光	
			18:00	夕食	
				AMAZON RESTAURANT	
				カンボジア伝統芸能	
3	2015/3/28	シェムリアップ	7:00	ホテル朝食	
	（土）		9:00	アンコールワット観光	南大門・バイヨン寺院・像のテラス
					ライ王のテラス
			12:00	昼食　飲茶料理	
			13:00	おみやげ店	
			14:00	Angkor National Museum	
			16:00	TONLE SAP LAKE	
			18:30	カンボジア料理	
		中国東方航空 MU514	22:45		機中泊
4	2015/3/29	中国東方航空 MU557	9:25		
	（日）	小松着	12:30		
			14:30	高岡着	

海外教育支援事業費　合計額　　2,027,141 円